

平成19年度古河チャレンジ予算事業

古河チャレンジ予算とは・・・

行政は安定性、継続性を重視することから、失敗をおそれ、新規のソフト施策の実現に二の足を踏みがちです。しかし、財政が非常に厳しい中、ハード偏重の行政運営は限界に近づき、また、地方分権の競争時代を勝ち抜くためにも、住民ニーズに即した新たなソフト施策にチャレンジすることも必要です。

そこで、従来の発想にとらわれず、新古河市の明日に羽ばたくための斬新なソフト施策について、“古河チャレンジ予算”として平成19年度予算に盛り込むこととしました。“古河チャレンジ予算”は、原則として1年間で終了することを前提としますが、継続にあたっては、十分に成果・継続の必要性を検証したうえで判断します。

予算額（単位：千円）

※地域資源発掘事業《企画政策課》

337

全国（県内・市内）ナンバーワンと認められるもの（個人・団体）に市長が認定証を発行し、また、秀でたものには優秀賞を贈ります。また、各種イベント等を通して紹介するなどして、古河市への愛着・思いを深め一体感の醸成を図ります。

※団塊の世代応援事業《企画政策課》

100

退職（会社等）した団塊の世代の人の得意分野を活かし、社会に還元したい知識や経験を登録、貴重な知識・経験等を必要な人に還元する仕組みをつくり、団塊の世代の生きがい対策を推進します。また、団塊の世代への行政情報提供の充実を図り、活躍のPRに努めます。

※古河市新交通システム事業《プロジェクト推進室》

200

合併に伴う市内の交通空白の解消及び交通弱者といわれる高齢者や障害者等の公共交通機関を利用した移動手段を確保するため、市民の意向をふまえた新しい交通システムの検討・導入により、3地区の融和を図ります。

- ☼メタボリックシンドローム対策事業《健康推進課》** 4,335
 内臓脂肪型肥満が大きな関わりを持つ生活習慣病の改善・予防対策として、アルブミン検査等を実施し、市民の健康推進を図ります。対象者は、60歳～65歳までとし、事業実施については、古河市医師会を始め古河地域産業保健センターと協議推進します。
- ☼古河市名産品策定事業《商工観光課》** 500
 全国に誇れる古河市の名産品を策定するとともに需要拡大を図り、地域経済の活性化を図ります。
- ☼南極教室 IN 古河事業《生涯学習課》** 800
 南極昭和基地と古河市を人工衛星を利用した回線で結び、昭和基地の厳しい環境の中で観測活動に励む隊員と小中学生がリアルタイムに話をし、南極の自然と地理・環境問題等を学びます。
- ☼特色ある小・中学校づくり推進事業《教育総務課》** 2,000
 各学校の校長自ら、特色ある学校づくり推進のための企画書を提案し、市長・教育長等を中心としたメンバーによる審議のうえ、優秀な企画に対して、助成金を交付し、事業推進を図ります。